

研修医の声

初期研修1年目を振り返って

新潟県立中央病院

鈴木 茜 理

新潟県立中央病院初期研修医の鈴木茜理と申します。初期研修も1年目が終わり、折り返し地点を通過しようとしています。寄稿文の依頼があつてから3ヶ月程度原稿を温めており、少々焦りながらパソコンを叩いております。書く内容がまとまらないため、以下3点に絞らせていただきます。

①新潟県立中央病院について

新潟県立中央病院は上越市にある病床数524の上越医療圏の基幹病院です。半径約100km以内に大学病院がなく、最後の砦という覚悟を持って働いています。忙しい3次救急病院ですが各科の協力体制が整えられており、緊迫感の中にも安心感のある研修を行うことができます。内科系も外科系も優しい指導医が多く、相談しやすい雰囲気です。(と医学生向けの紹介パンフレットに書いてあります)

②初期研修1年目の振り返り

私は生まれも育ちも新潟市で、高校生の時に医師を志しました。高校生の時点で乳腺外科にいきたいと決めており、外科系をはじめとする診療科

が多く、3次救急もみられる新潟県立中央病院を希望しました。私の研修医生活1年目をざっくりと振り返ります。ひよこ状態で5月に1回目の救急科を回り、秋に志望科である外科で楽しくテンション高めに研修した直後、総合診療内科で病棟管理をひいひいこなし、冬に突入すると半べそをかきながら1日3回車の雪下ろしと駐車場の除雪をしていました。乳腺外科のセミナーや勉強会にも参加し、3年目以降の専門分野の雰囲気を少し味わいました。

③今後の抱負

まだまだ至らない点が多く、反省と学びの日々です。上級医の先生方にご指導いただきなんとかかんとか日々診療を行っています。全面的なバックアップがある恵まれた環境は、あと1年で終わ리と思うと不安で堪らないですが、弱気な事は言ってはいられません。来週からは後輩も入職し、後輩指導というミッションも追加されます。謙虚な心を忘れずに、貪欲に、残りの研修医生活、全力で学んでいきたいと思っています。



研修医集合写真

最前列右から4番目が筆者